



まるお

<道しるべ>

夢を追う君へ
思い出してくじけそうなら
いつだって物語の主人公が立ち上
がる限り
物語は続くんだ

SEKAINOOWARI サザンカ

<学校教育目標>

自ら学び 自他を尊重し
心豊かでたくましい生徒の育成

<重点目標(スローガン)>

感謝+優しさ=笑顔と幸せへの道

発行：長崎市立丸尾中学校

文責：校長 川口 猛

令和8年7月10日(金) NO14

生かしてほしいキャリア学習。そして、日々の生活は有難し。……

命の学習、キャリア学習

6月から7月は、梅雨の時期で、教育週間もあり、平和学習もあり……と盛りだくさんな時期です。その中で、先日、2年生が、キャリア学習の一環として、マナー講座を受講いたしました。官公学生服の山口さんを講師として、マナーの意義や、マナーの実践を行いました。8月に実施される職場体験学習を想定しての、本講座でしたが、中学生にとっては、初めても多く、緊張しながらの学習でした。



保護者の方々は、まさに毎日がマナーを問われていると思います。ユーチューブなどではよく、会社のマナーが取り上げられています。『自分が所属する会社の呼び方』『スーツの着こなし方』『電話の対応の仕方』など、私も参考になることが多いです。学校では、なかなか使用しないマナー等も目にすることができます。生徒たちの立った姿勢、ばっちりでした。『立つ』こと一つとっても、大変難しいことです。指先と背筋を伸ばし、顎を引き気味にして、直視するとはいっても、普段そこまでなかなかできないものです。私たち社会人は、それも仕事のうちですから意識しますが、子どもの世界では、そこまではありません。しかし、入試は、異なります。求められるレベルは、やはり、社会で通用するレベルと思ってよいと考えます。というか、そこまできちんと意識できていれば、決してマイナスにはならないと考えます。きっとこのマナー講座が、社屋場体験学習に生かされ、立派な丸尾中学校の生徒として働き、学び、地域貢献すると信じています。頑張ってください2年生！

教育週間は終わりましたが、『命』の尊さと有難さを改めて学び、自分の生き方を考えてほしいと思って、心にグッとくる詩・文を紹介します。

命
宮越由貴奈

命はとても大切だ
人間が生きるための電池みたいだ
でも電池はいつか切れる
命もいつかはなくなる
電池はすぐにとりかえられるけど
命はそう簡単にはとりかえられない。
何年も何年も
月日がたつてやっと
神様から与えられるものだ
命がないと人間は生きられない
「命なんかいらない」
と言って
命を無駄にする人もいる
まだたくさんの命がつかえるのに
そんな人を見ると悲しくなる
命は休むことなく働いているのに
だから 私は命が疲れたと言うまで
せいっぱい生きよう

宮越由貴奈さんの母 陽子さん

5歳の時、神経芽細胞種と診断され、11歳で亡くなりました。信州大病院での抗がん剤治療や腎臓を片方とる手術に始まりこども病院に移っての自家骨髄移植やその他にもいろいろなつらい治療を受けながら、入退院を繰り返していたころ書いたものです。命という作品を書いた頃、テレビで流れるニュースと言えば、いじめだとか自殺だとかが多く、同じ頃病院では、一緒に入院していた友達が何人か亡くなりました。生きたくても生きられない友達がいるのに自殺なんて・・・そんな感じでした。それにちょうど院内学級で電池の勉強をしたばかりだったそうです。この詩を書いた4か月後に亡くなりましたがこれに書いたとおり十分精一杯生きました。書くことがそんなに得意ではなかった娘のこの『命』という詩は十一年という短いけれど凝縮された人生の中で得た勉強の成果なのではないかと思います。

朝、ケータイのアラームで目を覚ます。
コンビニで買っておいたパンが朝食。
自転車で登校。講義を受ける。(つまらないのは寝る)
放課後、バドミントンで汗を流す。
夕食はクラブの人たちと。

私はこんなごく普通の大学生活を送っている。ごく普通の生活・・・こんな生活を送れることに、私はつくづく喜びを感じている。六年前、白血病を患い入院していた頃は、こんな生活すらできなかったし、将来を想像することもできなかったのだから・・・。

私はあの闘病生活の中で、普通の生活ができること、精一杯生きられることがどれだけ幸せで大変なことかを教えてもらった。だから、私は、この助けられた命で精一杯生きようと思う。そして、精一杯生きようと私が選んだ生き方・・・それは、『医師となり、病に苦しむ子供たちを助ける』ことである。自分の経験を活かし、病に苦しみ不安に感じている子どもたちを病から救いたい。そして、心の支えになりたい。そんな生き方をしたいと思い、私は、毎日の生活を精一杯生きている。

盛田大介さん

県立長野病院(長野県・豊科町)には、長期入院をしている子どもたちが学ぶための院内学級があります。本号で紹介する詩や文章は、この院内学級で仲間と楽しく学ぶ子どもたちの言葉です。私たち長崎市にも、院内学級も持った中学校があります。長崎市立山里中学校です。紹介する詩や文章は、県立長野病院の院内学級の子どもたちですが、その文章がまとまった本があります。『電池が切れるまで こども病院からのメッセージ ずらんの会 編』を読む中で印象に残ったものです。教育週間は終わりましたが、命を考えることは生き方を考えることです。日々成長する皆さんに、生き方を考える材料になると思って本号を作成しました。また、スローガンの中の感謝『ありがとう』の振り返りにもなります。読んでみてください。